



# 2022年度第2回理事会



## 議 事 録



一般社団法人 日本クレー射撃協会

## 2022年度 第2回理事会

### 議 事 録

1. 日 時 2022年6月22日(水) 11時00分～

2. 場 所 JAPAN・SPORT・OLYMPIC・SQUARE 3階 会議室10

3. 出席者 出席理事15名、出席監事3名

会 長 (議長)	高橋 義博 (神奈川)	*強化委員長
副 会 長	不老 安正 (福 岡)	
副 会 長	丸石 博 (島 根)	
専務理事	柏木 孝則 (三 重)	*審査委員長
常務理事	渡辺 久雄 (栃 木)	*競技委員長
常務理事	菊本 哲也 (東 京)	*総務委員長
理 事	坂井 則寿 (北海道)	WEB
理 事	栗原 貞夫 (埼 玉)	WEB
理 事	瀧根 隆幸 (富 山)	
理 事	森 秀樹 (滋 賀)	
理 事	三谷 千津男 (熊 本)	
理 事	本戸 歳知 (埼 玉)	
理 事	安田 岸雄 (愛 媛)	WEB
理 事	岩尾 美和子 (和歌山)	
理 事	寺西 寛 (大 阪)	WEB
監 事	江野澤 吉克 (千 葉)	
監 事	相馬 正 (青 森)	
監 事	藤沼 弘文 (岩 手)	WEB

(欠席理事) 三浦正義、井出益弘、夏樹陽子、佐々木洋平

4. 陪 席 梅津 宣弘 (強化委員会)  
大江 直之 (事務局長)  
永島 宏泰 (事務局次長、JOC アシスタントコーチ)  
坂本 強 (本部事務局)  
清水 光一 (NTC 担当職員)

5. 理事会定足数確認

本理事会の定足数について、理事総数19名中15名の出席となり、定款第43条の規定により過半数以上の理事が出席しているため成立したことを議長より報告。なお、監事については監事3名全員が出席。

6. 議長挨拶及び議事録署名人確認

議長より、定款第 42 条に基づき高橋義博会長が本理事会の議長を務める旨説明し、本理事会の議事の経過を議事録とし議事録署名人については、定款第 47 条に基づき、議長と出席している監事 3 名となる旨説明。

また、審議に先立ち、議長より出席理事各位に対し、挨拶と議事進行に際しての協力依頼があった。

7. 誓約事項唱和

本戸歳知理事より誓約事項を唱和。

8. 報告事項

(1) 2021 年度会員数について

事務局長より報告説明。

2021 年度会員総数は 2,126 名（男子会員 1,989 名・女子会員 137 名）、うち新入会員 288 名という内容であった。前年度対比では、会員総数+122 名、女子会員+22 名、新入会員+94 名。

定時社員総会時、新入会員の獲得が多かった 3 団体を表彰する予定。

(2) 正会員の変更について

事務局長から報告説明。

計 10 県の正会員変更届が本部事務局へ届いており、定款第 10 条第 1 項に基づき理事会へ報告するので了承願いたい旨説明。

秋田県	三浦 正義	⇒	齊藤 豊隆	(62 歳)
山形県	藤田 茂男	⇒	須貝 昇	(66 歳)
福島県	氏家 利明	⇒	梅津 宣弘	(69 歳)
茨城県	岸本 健也	⇒	大川 幹雄	(66 歳)
栃木県	渡辺 久雄	⇒	内山 豊	(57 歳)
神奈川県	加藤 修一	⇒	本山 浩一郎	(58 歳)
新潟県	木村 富美夫	⇒	齋藤 隆志	(69 歳)
香川県	長尾 基裕	⇒	村尾 泰之	(47 歳)
徳島県	山内 照明	⇒	松永 茂	(47 歳)
長崎県	柴山 一	⇒	市川 勝彦	(51 歳)

議長が議場に諮り、これを了承。

(3) JSPO 第 4 期国体実施競技選定について

事務局長より報告説明。

JSPO 第 4 期国体実施競技選定（2028～2031 年）が精査され、クレール射撃は前回 40 位から 27 位まで順位を上げ、毎年開催に復帰することができた。

第 4 期で隔年開催は馬術、なぎなた。

審査結果の配点を見ると、女性スポーツの推進が 108/240 点、医科学サポートが 48/160 点しか取れておらず、今後の課題になると思われる。

今後の国体予定は次の通り。

2022 年（令和 04 年）第 77 回栃木国体	×	
2023 年（令和 05 年）特別・鹿児島国体	×	
2024 年（令和 06 年）第 78 回佐賀国体	○	
2025 年（令和 07 年）第 79 回滋賀国体	×	
2026 年（令和 08 年）第 80 回青森国体	○	
2027 年（令和 09 年）第 81 回宮崎国体	×	
2028 年（令和 10 年）第 82 回長野国体	○	} 第 4 期
2029 年（令和 11 年）第 83 回群馬国体	○	
2030 年（令和 12 年）第 84 回島根国体	○	
2031 年（令和 13 年）第 85 回奈良国体	○	

#### （４）WC アゼルバイジャン大会について

事務局長より報告説明。

去る 5 月 27 日から 6 月 7 日にかけて、ワールドカップアゼルバイジャン大会がバクー市で開催された。当協会より強化指定選手：スキート種目戸口翔太郎選手、監督として永島次長、レフェリーとして柏木専務理事が参加。

成績は第 50 位だったが、初日は満射を記録した。同選手の初陣であり今後の活躍に期待したい。

柏木専務理事より補足説明。

東京五輪後ルール変更が行われ、同大会は新ルールによる初めてのワールドカップとなった。新たに団体男女 2 種目が増えた他、スキート・ミックス種目も行われ、2024 パリ五輪から導入される予定。

新ルールに慣れていないために運営役員側に十分な理解がなされていないところで大会実施となり、非常に混乱を催した大会であった。

レフェリーは概ね 7 時から射場へ集まり、ファイナルが終了するのがもう 19 時半過ぎ、気温も 30 度を超えが大会日程 2 週間続いた。選手も過酷な環境下であった。戸口選手は早めに現地入りして、少ないながらもアンオフィシャル練習も永島監督の計画の下で行うことができ、過去の大会と比較して準備ができて大会へ臨めたと思われる。

来月 7 月、韓国・チャンウォンでワールドカップがあり、戸口選手が派遣され、レフェリーとしては渡辺競技委員長と私が参加予定となっている。アゼルバイジャンに比べれば大会運営側も新ルールに慣れた運営ができると思われる。

議長より説明。

従来のワールドカップ大会では五輪が近くなると QP 付与があったが、配分方法が変更となりワールドカップ大会には一切 QP 付与が無くなった。QP 付与は大陸別選手権大会と世界選手権大会のみ。アラブ国が非常に力を付けてきているため、今後のアジア大陸選手権でメダルを獲得することは世界選手権のメダルと差が無いほど難しくなっている。今後さらに強化へ傾注しないと

QP 獲得も危うい。

(5) 強化委員会報告

永島次長より報告説明。

1 プロジェクト会議の面談結果について

橋本聖子顧問の取り計らいにより JISS (国立スポーツ科学センター) 内へクレ射撃のプロジェクトチームが発足することになり、去る 5 月 18 日、打合せが行われた。

スポーツ科学、スポーツ医学、トレーナーの 3 本柱から始め(技術はこの次)、クレ射撃選手がどのような体組織を形成しているか、データ測定を行いチェックした上で JISS の意見を伺っていくこととなった。

データ測定対象選手として協会より、東京五輪参加の中山・石原を含め、戸口・脇屋・高橋・折原・大前・宮坂の計 8 選手を推薦することとした。石原選手はまだ連絡が取れていないため現状 7 名。

2 外国人コーチ候補者リスト

会長よりケビン氏へ優秀なコーチを紹介願いたい旨を依頼したところ、3 名の推薦があった。

- ・ピエトロ・ゲンガ (イタリア)
- ・トレブロ・プロボルド (ノルウェー)
- ・ピーター・パック (エストニア)

会長としては現在バーレーンのコーチを務めるティモキン氏に依頼したいため同氏とコンタクトを取り、結果引き受けてもらえないのであれば、ケビン氏より推薦のあった 3 氏の中から人選したい。

3 強化指定選手・強化育成選手リスト

現在強化委員会が指定している選手は次の 9 名。

(強化指定：1 名) スキート男子 戸口翔太郎 (埼玉)

(強化育成：8 名) トラップ男子 高橋大輝 (本部)、笹田直希 (東京)、  
田村道英 (千葉)、中村俊彦 (栃木)、  
大川明久 (山形)

トラップ女子 大前有希 (兵庫)

スキート男子 脇屋昂 (三重)

スキート女子 折原梨花 (栃木)

強化委員会顧問の加藤衛氏より、トラップ女子宮坂七海選手を強化育成選手へ推薦する旨の文書が提出され、審議の結果、同選手を強化育成選手へ追加することとなった。

4 強化育成選手の選定基準について

今後 JISS のサポートも関連するため、強化育成選手の選定基準を明文化することを決定。強化のために週 3 回以上射撃場へ来ることが可能な選手が望ましく、原案を作成後、強化委員会で再度審議。

## 5 その他

◇JSC 助成事業である令和4年度タレント発掘事業（学生育成）について前例のない補助金内示があった。過度な協会負担金が発生するため、今後JSCと対象範囲等を確認し、問題がなければ橋本先生にも相談して進めていきたい。現在は強化拠点としてスポーツ庁より伊勢原射撃場が認定を受け、強化指定射撃場として岡山県クレ射撃場がJOC指定を受けている。可能であれば岡山を中心に、東海、近畿、四国、中国、九州ブロックをメインに学生合宿が運営できれば良いと考えている。

### ◇ワールドカップ体験ツアー

ISSF 決定により年4回実施されるワールドカップ大会は全てQPが付与されず、大陸選手権・世界選手権のみに付与されることとなった。これまでにワールドカップ予選会を数多く実施してきたが、基準点（120点）を超える選手は1人も出ず、何回予選会を行っても基準点をクリアする選手は出ないと推測。従って、ワールドカップに行きたい選手を集め、帯同スタッフとして強化委員会メンバーが同行し、以前は自費派遣を止めていたがこれを復活させて、ツアーを組んではどうかということが提案された。強化委員会は、選手の経験値の蓄積や競技力向上に繋がることを期待し承認。詳細については今後原案を作り、再度強化委員会へ提案。

### ◇後援企業会について

強化事業の原資を確保するため、今後後援企業会についても真摯（しんし）に取り組むことを委員長が説明提案し、了承された。

### 議長より補足説明。

競技団体は競技力向上を目標として、五輪でメダルを獲得するために補助金を使って選手強化を行う。予算は強化が優先されることを再認識願いたい。また、引退した選手のことも考えていく必要がある。

## (6) その他：ウクライナ共和国支援募金について

事務局長より報告説明。

理事各位や都道府県協会・部会へ支援募金について、4月初旬、文書案内させていただいた。5月末日〆切で59万7,089円が集まった。支援募金については顧問の橋本先生へ相談し、JSPO・JOC・JPCを通じて特定非営利活動法人国連UNHCR協会へ全額寄付をさせていただいた。

## 9. 審議事項

### (1) 2021年度事業報告書（案）について

事務局長より議案説明。

原案は各位へ事前送付しているため要点のみ説明したい。

#### 1 クレー射撃の普及及び指導

広報事業、助成事業、推薦業務、国体、クレー射撃シミュレーター、

- ドーピング検査、基本プランの更新
- 2 クレー射撃の全日本選手権大会、及びその他の競技会の開催  
本部公式大会、地方公式大会、ランニング・ターゲット公式大会
  - 3 クレー射撃に関する指導者及び審判員養成並びにその資格の認定  
ブロック講習会、国際審判員講習会
  - 4 クレー射撃に関する施設、用具等及び段級位の検定及び認定  
輸入クレー検定会、公認射撃場検定の実施、関連団体への指導育成・情報  
交換、段級位審査事業
  - 5 クレー射撃の競技力向上に関する事業  
国際競技会への選手団派遣（JOC 事業）、強化合宿事業（JOC 事業）、  
タレント発掘事業（JSC 事業）、  
スポーツ庁指定競技別強化拠点（競技別 NTC）
  - 6 クレー射撃スポーツの普及・振興に資するための補完事業として事業運営  
上必要な物品の販売  
協会グッズ作成・販売
  - 7 その他、目的を達成するために必要な事業  
諸規定等の制定、国内上部団体・関係団体等との連携、国際上部団体、  
資格審査事業、総務事業、奨励金事業、ガバナンスコード、理事会・総会、  
各種表彰、公益法人移行、会員の増減

江野澤監事より、業務監査報告書について次の 3 点を説明。

- 1 コロナ禍の影響が大きい中、令和 3 年度は多くの新入会員を獲得したことを評価。理事会では、各都道府県協会へ射撃教室やビギナー大会・マスター大会の実施を令和 5 年度より義務付けることを決めた。協会組織の安定・繁栄の観点から、令和 4 年度以降も会員増加へ傾注願いたい。
- 2 2021 年度（令和 2 年度）、日本政策金融公庫より 3,000 万円の長期借入（5 年）を行い、来る 2023 年（令和 5 年）8 月より返済を行うことを鑑み、令和 4 年度以降、長期借入金の返済計画を含めた予算編成を行うよう要望。
- 3 理事会は、本部運営ガイドライン及び加盟団体運営ガイドラインを作成・承認、改革への大きな第一歩を踏み出すことができた。加盟団体に対して今後一層の啓発を図り、協会三原則を追求し、ガバナンス・コンプライアンス・インテグリティの醸成を図り、協会関係者・射撃場関係者・銃砲店関係者による三位一体の運営を推進いただきたい。

議長より説明。

新会長への依頼事項として、事務局の改革はもう暫らく私の手に委ねていただ

きたい。長期借入金の返済については、会員が増加傾向にあることは間違いなが、通算 20 年ほど日本猟用資材工業会と装弾の検定について折衝を行ってきた経緯があり、今期やっと 800 万円の公認料をいただいた。しかしながら年間 3,000 万発の装弾が工業会傘下会社で流通していることを鑑みれば十分とは言えない。

強化事業の原資も不足し長期借入金返済もあることから、総会終了後、工業会と打合せを行いたいと考え事務局に指示をしている。改善の方向性を示してから新執行部へ引継ぎたい。

また、ガイドラインについては、これを推進するための特別委員会を作る必要があると考えている。その他、後援企業会を推進するための特別委員会、コンパック射撃を推進するための特別委員会も必要である。

質疑後議長が議場に諮り 2021 年度事業報告書案が承認され、定時社員総会へ理事会案として上程することを申し合せた。

## (2) 2021 年度収支決算書（案）について

事務局長より議案説明。

事業報告同様、原案は各位へ事前送付しているため要点のみ説明したい。

貸借対照表上、流動資産・固定資産を足した当年度の資産合計が約 1 億 4,500 万円。負債として流動負債・固定負債の合計約 9,450 万円。この固定負債内に、先ほど監事から指摘のあった長期借入金 3,000 万円が含まれている。

資産から負債を引いた正味財産は約 5,050 万円となり、昨年度よりも 1,430 万円ほど正味財産が増加した決算となった。

正味財産増減計算書内訳表において今期の収支詳細が記載されている。会費や事業収入、補助金等を加えた今期の経常収益合計は約 1 億 7,570 万円。事業費、管理費等を加えた経常費用合計は約 1 億 6,720 万円となり、約 840 万円の黒字となった。なお、監事監査報告書及び公認会計士監査報告書、予算対比表を添付しているので詳細はご参照願いたい。

質疑後議長が議場に諮り 2021 年度収支決算書案が承認され、定時社員総会へ理事会案として上程することを申し合せた。

議長より、以上で報告事項、議案審議の総てが終了したことを告げ、出席各位への慎重審議に対して謝辞があり、閉会を宣した。


12 時 30 分 閉 会




2022年6月22日

一般社団法人 日本クレー射撃協会

議長 高橋 義博   
(会長 高橋 義博 自筆署名)

議事録署名人 江野澤 吉克   
(監事 江野澤 吉克 自筆署名)

議事録署名人 相馬 正   
(監事 相馬 正 自筆署名)

議事録署名人 藤沼 弘文   
(監事 藤沼 弘文 自筆署名)